東京の消防団の
シンボルマーク

ASAKUSA DAN PRESS 119

わが町を
わが手で守る
消防団

東京の消防団の
スローガン

編集発行／浅草消防団　監修／浅草消防署　電話 3847-0119

平成二五年度 浅草消防団消防操法審査会

優勝 第二分団

準優勝 第三分団
敢闘賞 第四分団
第一分団

平成二五年六月三十日(日)

大会を終えて

第二分団　分団長　若林昭一郎

例年、5月から6月にかけて毎週末祭りがあり皆様や団員、そしてここで生まれ育った私にとっても一番楽しい時季といえます。それから大会にむけて訓練開始です。

今年も6月末の大会となり、訓練の日程もつまり、非常に心配しました。

それでも、指揮者を中心に選手・コーチ達がまとまり、それぞれのやるべき事を行い、雨の日はミーティングと素晴しいチームワークで無事に練習をこなしてくれました。

私はただ選手の皆さんがけがをしないことを祈り、団員と共に支援部隊として応援しました。

大会当日はいつもの練習以上の成果で、無事に終える事ができました。

今大会にかぎらず、地域・町会の皆様、団員・家族・周りの皆様、ご協力に感謝いたします。

本当にありがとうございました。

指揮者として、選手として

第二分団　班長　浅見隆行

支援の皆様、選手の皆様お疲れ様でした。

今回操法大会に指揮者として出場させていただきましたが、選手はとても久しぶりで緊張しました。

今年は雨で練習出来ない日も多く気をもみましたが、選手達が若く優秀であったため、結果として優勝する事が出来、責任を果たせたと思います。

操法を通じて協力するという事の大切さを再確認しました。

一分団、操法奮闘記

第一分団　団員　志村淳子

今回一分団は「女性でも災害時の一助を担える事が出来る」のテーマのもと、頭も身体も新しい事の定着に時間がかかる主婦混合の女性団員三人が選抜され、4月より練習を開始。

水圧の負担は大きくはないか、ホースは投げ難くないかと気遣いながら巻く姿、交通整理を始め疲れが取れる様にと真心の差し入れをして下さる等、田島分団長以下、全団員が一丸となり支援下さいました。当日全力で戦い終わった後、一分団の男女皆が拍手で泣いて出迎えてくれた姿に、結果は最下位でも、チームワークは1位だ！と感無量でした。一人欠けても、この達成感は成し得なかったと思います。

改めてこの場をお借りし感謝を申し上げます。

最後に各選手の感想を記します。

指揮者　班長　石村宣弘
勝ち負けより一分団がひとつになった。仲間はいいなあ。

1番員　団員　飯塚美津子
夫婦喧嘩後の練習は、火点が主人の顔に見えてくる。

2番員　団員　角田愛
徒競走毎年ビリのあの頃は、ホース担ぐなど夢にも思はず

3番員　団員　志村淳子
操法選手やり抜けば必ず痩せると言われども鳶口構えど我が身変らじ

4番員　団員　藤倉輝章
悔しさも残るが、達成感が最高に気持ち良い大会でした。本当のチームになれたかな…。

消防操法大会に参加する意味

第三分団　班長　竹村佳昭

消防操法大会に出場した団員と、そうでない団員では多大な経験値の差を生むと言っても過言ではありません。

例えば、敬礼の仕方や、整列時の間隔、足の開きの角度等、団活動での基本は、これが基準であり、出場する事で、正しい方法を習う方も多いかと思います。ましてや、送水方法や筒先の取り扱い方においては、全ての動作に呼称が定められており、教官ビデオの通りに動作する事は大変困難を要します。しかし、出場の為に訓練をする事で、消防署との連携訓練や消火活動の際でも、慌てずに、応用動作に移行する事が可能になります。その為にも、毎年多くの新人団員が選手として出場する事は、参加するだけでも、とても重要な事なのです。

ただし、この大会には二つのコンセプトが存在します。先にあげた重要性と東京都大会の選手の強化です。浅草が四年毎に参加するこの大会は、二三区内の優勝を決める、とても重要な操法大会です。もしも、ここを強化するのであれば、各分団は操法の基本をビデオ通りに統一して、向上しなくてはいけません。その為には、採点者である消防署は、行動減点の箇所を操法大会後に、各団へ配布をするべきではないでしょうか。それにより各団が前年の行動減点箇所を改善し、ひいては次回の東京都大会においても、良い成績を収められると確信せずにはいられません。

不動の姿勢

第四分団　班長　志村泰利

今回の大会では『姿勢』に重点を置いて挑みました。

『姿勢』は消防活動全ての基本です。整列はもとより、所作、動作、ひいては消防団員としての有り様まで形作るものと考えます。

重心を何処に置くか、足の裏全部で体重を支えられているか、目線は真っ直ぐか、体軸が歪んでいないか。

大会当日に署員の方が着ておられた『不動の姿勢』のTシャツ、正にこれこそ消防の精神であると確信し大会に挑むことが出来たと思います。

（これぞ不動の姿勢）

隅田川花火大会・豪雨で中止！

【第三分団深谷部長：インタビュー】

いやぁ～大変でした！

大会の中止後、救護所より、救急車の要請があり、救急車が待機している現地警戒本部に、車いすで急病人を搬送する事になったのです。急病人が濡れないように、ブルーシートを屋根にして、署員、高野班長、飯塚団員、河野団員で車いすを囲み、警戒班隊長が進路を、私が誘導係りになりました。激しい雨で観客は右往左往の大混乱、水たまり、車道と歩道の段差の中の搬送でした。それは大変長い道のりに感じ、雨具は着ていたものの皆、靴の中はチャポチャポになりました。

何とか急病人は濡れる事も無く、無事に救急車に乗り替えられた時は皆、本当にほっといたしました。

【第一分団宮本班長：インタビュー】

私は、署員と定期的に駒形橋中央付近に行き、第二会場の花火台船からの打ち上げ状況等を警戒し、報告をする役割でした。三回目に橋中央に到着直後に、大雨になり、署員が現地警戒本部と無線連絡する中、中止による警戒態勢の変更までの間、現地に待機。

頭は保安帽に守られましたが、雨具を着用していなかったので、雨が容赦なく滴り落ちてきました。警戒時は安全に活動できるように、雨具やその他の装備の確認が必要と実感しました。

【編集委員】大会中止から警戒解除になるまで、長時間にわたり、出動団員の皆様大変ご苦労様でした。

『救急要請　雷門二-□-△』

第四分団　団員　二見圭一

最高気温三六度の予報の中、第三二回浅草サンバカーニバル消防特別警戒は一二時三〇分から開始されました。

時間を追って人が増えるなか、熱中症や脱水症状等の言葉が脳裏に浮かびます。人の流れが多い場所の近くに二歳くらいの男子が座っていたので、親御さんに事故に巻き込まれるかもしれないと伝えると「わかりました」と笑顔で答えてくれました。危険排除も重要な仕事です。

現地警戒本部へ戻り、気温と湿度上昇を感じた頃「警戒本部より現地警戒本部へ、ブツッ、救急要請、ブツッ」無線入電、「四班出場！」高岡副団長の声で空気ごと話し声も止まる。「現地警戒本部どうぞ」「救急要請、男一、雷門二丁目-□-△」署隊員が地図で確認しながら現場へ行く、初めは声も出ない程の男性も次第に顔色と落ち着きを取り戻したようでしたが大事を取って現地警戒本部で休んでもらいました。

一六時と時が過ぎてからは風もやや強くなり、その暖かい風が徐々に下がれば秋風を呼んでくれると思わせてくれました。

モデル分団となって　第一分団

「地域特性に応じ、震災時に優先的に求められる災害活動に対応した実践的な教育訓練を推進し、活動能力・技術を育成し、分団単位の組織対応力を強化すること」を目的とし、平成二五年四月一日にモデル分団として指定されました。

指定後は、分団会議で各団員にモデル分団の目的を説明し、積極的に活動能力の強化及び知識の向上を図ることを周知し、分団員全員が一丸となって訓練に臨むことを確認しました。

また、男性団員だけではなく、女性団員の災害活動力の強化を考慮し、可搬ポンプ教養への女性団員の参加を促し、多くの参加がありました。更に操法審査会は、女性団員中心に編成し、強化訓練に励み活動能力の向上につながりました。その後実施した応急救護訓練や夢の島訓練場で実施した、署隊との連携訓練においても多くの団員が参加し、活動技術・知識の向上に積極的に努めています。

今後も訓練に励み、モデル分団としての目的達成に向けて頑張ります。

台東区総合防災訓練へ参加

九月一日(日)　午前九時、首都直下を震源とする大地震が発生し、台東区内でも相当の被害が発生したとの想定で、上野恩賜公園　噴水広場に出動しました。

浅草消防団は、D級ポンプの取り扱い訓練、応急救護訓練、そして第三分団可搬ポンプ積載車を使用した、一斉放水を担当しました。

新入団員紹介　※順不同

質問内容①普段のお仕事②特技、趣味③消防団に入団した理由

第一分団

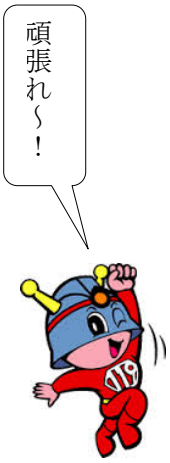
奥田（おくだ）　秀夫（ひでお）

①自営業です。
②趣味や特技は特段ありません。
③地域に少しでも貢献したいと思い入団致しました。私の所属する第一分団は皆さん優しい方ばかりで、分からない事も丁寧に教えてもらっています。早く戦力になれるよう頑張っていく所存です。

第二分団

伊藤（いとう）　岳（がく）

①建設業です。
②ゴルフ・スケート。
③川口消防団第五師団団員で六年務めておりました。こちらに引っ越してきて、震災等災害の時に住んでいる街を守りたいとの思いから志願しました。よろしくお願いします。



平成二十五年は、自治体消防発足から六十五周年、明治二十七年消防組（消防団の前身）がスタートしてから百二十周年目を迎えます。十一月二十五日に「消防団百二十年・自治体消防六十五周年記念大会」が開催されます。記念事業の一環として【消防団　三百六十五歩のマーチ】が完成しました。

【消防団　三百六十五歩のマーチ】
替え歌詞　後藤聡・めぐみ

父ちゃんは消防団員　地域を守るヒーローさ
地震や雷　火事台風も　冷静沈着出動だ
人生はワン・ツー・タッチ　いつでもどこでもささえ愛
あなたの流す　その汗に　感謝の言葉　ありがとう
力合わせ　心合わせ
ワン・ツー　ワン・ツー
ささえ合い　進め
ソレ　ワン・ツー・　ワン・ツー　ワン・ツー・　ワン・ツー

母ちゃんも消防団員　地域に咲かす笑顔花
愛嬌いっぱい　応急手当　防火指導も万全だ
人生はワン・ツー・タッチ　家族も近所もたすけ愛
もしもの時の助け船　日ごろの愛の積み重ね
力合わせ　心合わせ
ワン・ツー・　ワン・ツー
たすけ合い　進め
ソレ　ワン・ツー・　ワン・ツー　ワン・ツー・　ワン・ツー

ヨシ僕も消防団員　将来なってみせるんだ
みんなのために　見廻りながら
小さなことから防ぐんだ
人生はワン・ツー・タッチ
親子のふれあいきづき愛
一度の人生　だからこそ
大きな絆　築きましょう
力合わせ　心合わせ
ワン・ツー・　ワン・ツー
きづき合い　進め
ソレ　ワン・ツー・　ワン・ツー
ワン・ツー・　ワン・ツー

消防団員＊募集中

＜入団資格＞

○心身ともに健康で、
　年齢18歳以上の方
○消防団の区域内に居住、
　又は勤務する方

【問合せ先】

浅草消防団（浅草消防署内）
電話03（3847）0119

編集後記

２０２０年夏季五輪の開催都市が、１９６４年以来二度目、わが町東京に決定しました。七年後ですが、とても楽しみです。

さて、アサクサダンプレスでは作成をＩＴ化し、編集作業の効率化を行なっております。

また、タイムリーな記事を掲載できるように、発行を現在の年二回から数回に増やす予定です。

それに伴い次号から、より読みやすくするために、紙面の刷新を行う予定です。

お楽しみに！

ダンプレス　編集委員

☆委員長　三田村　信吉
☆副委員長　新井　寛
☆委　員
団本部　杉山　年昭・金田　寿美枝
第一分団　志村　淳子・西井　敏彦
第二分団　黒田　陣弥・渡邊　雄太
第三分団　沼　邦彦・髙野　文江
第四分団　志村　泰利・伊藤　寿晴